

まっちゃんぐ

街 ing いばらき NEWS

No. 252

2024年

2月号

(毎月25日発行)

巻頭言

想像力

杉山英俊

年が明けて初めての日、ほろ酔い気分で夕食の準備をしている所へ、スマホから警報が鳴り響きました。能登半島で大きな地震があり、茨木でも震度3の揺れを感じました。奇しくも前回の「街 ing いばらきニュース」に耐震や防災の事を書いたばかりで、内容が重複しますが今一度おさらいしたいと思います。

災害は当然起こらないほうが良いに決まっています。しかし残念なことに、いつかは絶対に起こる事です。災害が起こってしまった時、また、起こる前の備えを考える時、役に立つのは想像力ではないかと思っています。たとえば日常生活では、車に乗っているときには自転車や人が飛び出してくるかもしれないと、リュックサックを背負って電車に乗っているときは後ろの人に当たっているかもしれないと、多くの方が想像しながら行動していると思うのですが、非日常的な大災害に対しては想像する事が難しいのかもしれない。

大きな地震の時、家具が倒れる、物が落ちてくる、家屋や塀が倒壊する、火災が起きる、道路や石垣がくずれると言った危険な事柄から、電気、ガス、水道が使えなくなると言う生活面の困難も発生します。これくらいの事は、大体の方が頭ではわかっています。しかし、大事なものは、より具体的に想像して身の回りに落とし込むという事です。家の中のどの部分が倒壊するのか、どの家具が倒れてくるのか、近所にあるどの塀が倒れてくるか、火事になった場合、どのルートが危ないか。それがわかれば、危険な個所を補強する事も出来ますし、補強が今すぐにできないとしても、日ごろから意識していれば災害時にそこらとっさに身を守る事が出来るかもしれません。災害が起きた場合に何が起きるか、できるだけ想像力を働かせてシミュレートしてみてください。予期せぬ事が起こった時、人は一瞬思考停止して立ちすくんでしまいます。「予期せぬ事」を少しでも減らすことが、いざという時に生き残れるかどうかを分けるポイントだと思います。

今の社会は、車を含め、様々なものには安全装置が取り付けられ、池や川には柵が設置され、昔に比べて随分安全になっています。そして、何か事故が起きれば、製造者や施設の管理者の責任ばかり追及されます。しかし、結果としてそれが、危険を察知して近寄らないようにする能力を鈍くしているのではないかと思います。「想定外」の事がおきて原発の安全神話が崩れた事はいまだ記憶に新しい事です。災害は必ずおきます。安全装置は必ず故障します。結局最後に頼りになるのは、それらを乗り越えられる想像力ではないかと思っています。今回の震災を目の当たりにして、再度身の回りを見直してみようと感じた新年でした。

最後になりましたが、震災で亡くなられた方々のご冥福と、被害に合われた方々の一日も早い復興を、心からお祈りしております。



五条楽園の栄枯盛衰

昨年 12 月に街 ing の忘年会として、高瀬川沿いに歩き五条楽園を訪ねました。この地区の栄枯盛衰は、街づくりのあり方に大きなヒントを与えています。

高瀬川は江戸時代初期の 1611 年(関ヶ原の戦いは 1600 年)に角倉了以(すみのくらりょうい)によって、京都の中心部と伏見を結ぶための物流用として開削された運河です。開通以後、伏見や大坂を結ぶ交通の要衝となり、1920 年(大正 9 年)までの約 300 年間京都・伏見の水運として用いられました。こうした水運の増加に伴い、高瀬川を行き来する人々に向けた複数の遊郭が自然発生的に形成されていきました。

五条楽園は平成 22 年まであった花街(はなまち、芸者屋、遊女屋が集まっている町)です。その歴史は高瀬川開通後の江戸時代に遡ります。1761 年に一帯が遊郭として認可され、1935 年(昭和 10 年)頃には京都随一の色街(いろまち花柳街とくに遊郭)として栄え、1000 人ほどの遊女がいました。五条楽園では御座敷遊び以外にも歓楽街にありがちな賭博も行われていました。1889 年(明治 22 年)に賭博で使用する花札製造業としてこの地で創業した任天堂は、その後トランプや百人一首などを日本の家庭に普及させていきます。「任天」という言葉には、運を天に任せるという意味があります。賭博らしい命名ですが、失敗しても落ち込まず、それは天命だから前に進んでいくという企業姿勢もうかがえます。しかし、高度経済成長期を迎え、西洋化が進むにつれて和服様式が減少、お茶屋ビジネスの衰退が加速していきました。芸者の需要が激減したのです。以降、五条楽園は過去の記録となり、現在では「旧五条楽園」と呼ばれるようになりました。

最近になり、新たなチャンスを探る若者たちが立地条件の良いこの地を選び、独自の店舗を展開するようになってきました。わずかながら残る旧お茶屋や旧置屋の建物は内装が施され宿泊施設やレストラン、アトリエなどへと変化を遂げています。かつての任天堂本社ビルは、いまや華麗なホテル「丸福楼」へと改装されました。このホテルの宿泊料は 2 名で 38,000 円から、1 名でも同料金です。この価格帯でも人気があります。住民と行政は文化建築遺産の保存をしつつ、新たな息吹をもたらすよう尽力しています。旧五条楽園は文化活動や起業家の発信の場として新たな段階に入っています。今後は「旧五条楽園」がかつての栄光を取り戻していくことが期待されます。任天堂生まれのマリオは海を渡り、ポケモンが世界中に出没しているように。

賭博由来の言葉

五条楽園では、賭博も行われていました。賭博関連で今も使われている用語を紹介します。

思うつぼ 意図したとおりになること。

由来 思う壺の「壺」は博打でサイコロを入れて振る竹で編んだ入れ物のこと。熟練の壺振り師は、思ったとおりの目を出せることから、意図したとおりになることを「思う壺」というようになった。

裏目に出る 良い結果を期待してやったことが、逆に不都合な結果になること。

由来 裏目に出るの「裏目」は、サイコロを振って出た目の裏側の目のこと。サイコロの面は、表が「1」であれば裏は「6」、表が「2」であれば裏は「5」というように、表裏が奇数と偶数になっており、サイコロ賭博で「丁（偶数）」に掛けて裏面の「半（奇数）」が出ると「裏目が出た」ということになる。そこから、期待して行ったことが反対の結果になることを「裏目に出る」と言うようになった。

ため口 相手と対等な話し方をすること。

由来 タメ口の「タメ」は賭博用語で「ぞろ目(同じ数字)」を指した用語。1960年代から「タメ」は不良少年の隠語として「五分五分」の意味で使われるようになり、「対等」や「同じ」の意味も表すようになった。さらに、同い年の相手に話すような口のきき方をタメ口というようになっている。現在、「タメ口」は若者以外でも広く用いられるようになっている。

いちかばちか 結果はどうだろうと、運を天に任せてやってみること。

由来 丁半賭博の勝負を意味した言葉。「丁」は偶数、「半」は奇数。「丁」と「半」それぞれの漢字の上の部分を見ると「一」と「八」になり、「丁か半か」は「一か八か」になることからである。

一点張り 他の事を顧みず、その事だけを押し通すこと。

由来 サイコロ博打や花札などで、同じところばかり賭け続けることを「一点張り」と言い、そこからひとつの事だけを押し通すことを言うようになった。

番外

賭け事が大好きなイギリスのサンドイッチ伯爵は、食事の時間も惜しんでカードゲームにのめりこみました。そこで、パンの間に料理を挟んでカード片手に食べたというのが、サンドイッチの始まり。これと似たような由来の食べ物が日本にもあると言われています。それは「鉄火巻き」。賭博場のことを鉄火場(てっかば)と言います。賭け事に夢中になっている血の気の多い連中が食べていたのが始まり・・・と思われるのですが、鉄火巻きと賭け事の鉄火とは、何の関係もありません。鉄火とは、真っ赤に焼けた鉄のこと。鉄火巻きは、赤いマグロを巻いたからこういう名前がつけられたというのがその理由です。

春爛漫の“京都府立植物園”を巡る！

令和6年4月3日（水）

案内人：牧 彰（会員）

生きた植物の博物館です。園内のカフェで休憩しながらの長閑な散策もお勧めです！

“京都府立植物園”は、賀茂川左岸沿いの植物園です。開園は大正13年（1924）と大変古く、当初は“大正記念京都植物園”という名称でした。

第2次世界大戦中と戦後しばらくは、植物園として機能していませんでしたが、昭和36年（1961）4月、憩いと教養の場として内容を一新して、再び一般公開されました。園内には、バラ園、竹笹園、芍薬園や、国内最大級の観覧温室もあり、年間を通じて多くの来園者があります。

森林浴気分森の中を彷徨ったり、季節の花を鑑賞することで気分も大いにリフレッシュ！園内すべてを回ると結構歩くことになるので、途中カフェで一休みするのもお勧めです。

（“京都府立博物館”HPより）



紅枝垂れ桜の並木道（半木の道）

サイタ、サイタ。サクラがサイタ。（京都府立植物園）

＜半木の道＞

北山通と北大路通の間、京都府立植物園西側に沿った桜並木で有名な散歩道。春の京都を代表する景色として知られる。その昔、西賀茂にあった神社が洪水で流れ出し、この地に留まったため、その流木で神社を造り祀ったという。現在植物園内北西に鎮座する「半木神社」がそれで、「流れ木」が転訛したものといわれる。

『京都・観光文化検定試験公式テキストブック』より

◇参集地：阪急「茨木市」駅9時30分、「陶板名画の庭」15時（「陶板名画の庭」は、昼食休憩時に自由参観のこと。）

◇順 路：「茨木市」9：48⇒「烏丸／四条」⇒「北山」～11：00 府立植物園～昼食休憩（13時～15時）～15時京都府立「陶板名画の庭」～北山通～半木の道～賀茂川飛び石（V北大路橋）～「北大路」⇒「四条／烏丸」⇒阪急「茨木市」17時頃解散

◇植物園：園内散策（ガイド付約1時間）＋温室観察（ガイドなし約30分）＝1時間30分～2時間

◇昼 食：北山通沿いの下記レストランより、各自選ぶこと。いずれも、1,500円ほどです。（案内図当日配布）

☆天壇（焼肉）☆キャピタル東洋邸（洋食）☆ブリアン北山本店（ベーカリー）

☆インザグリーン（イタリアン）☆進々堂北山店（ベーカリー）

☆よしむら北山楼（そば・うどん）☆権兵衛（そば・うどん）

◇入園料：植物園200円・観覧温室200円

※70歳以上は無料（証明書要）

◇定 員：20名ほど

◇参加費：無料

※会員には、会より1,000円の補助あり。

◇交通費：「茨木市」⇒「北山」590円、「北大路」⇒「茨木市」590円

◇申込先：「街ing いばらき」代表・阪田浩（080 - 1436 - 9881） 申込締切1月31日（水）

Tel&Fax／072 - 627 - 3480 E-mail:ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

※ 本会行事は、自由参加です。不測の事故・傷害などは、自己責任でご対応ください。

利休七種の蓋置

中村幸子

数年前のことですが、彦根城に行く機会があり、彦根城博物館で井伊家の茶道具を見ることができました。井伊直弼（1815-60）の埋木舎（うもれぎのや）や、江戸幕府の大老になり開国をとなえ桜田門外の変で亡くなったことなどを思い出しながら素晴らしい茶道具を見せていただきました。その中で印象深かったのは、利休七種の蓋置といわれている七つの蓋置の美しさでした。



蓋置というのは、お茶をたてるときに釜から湯を柄杓ですくいと、茶碗にそそぐために釜の蓋を取った時にその蓋を置くための小さなお道具です。よく見かける蓋置は、竹を切った6cmぐらいのもので炉用と風炉用があり、建水の中に入れて茶室に運び入れ、建水から取り出してその上に釜の蓋を置きます。

利休七種の蓋置といわれているものは、趣向をこらした大変優れた蓋置で、それぞれに名前があり、五徳・三つ人形・一閑人（いっかんじん）・火舎香炉（ほやこうろ）・三つ葉・栄螺（さざえ）・蟹です。名前が示す通りのかたちをしていて、お点前では正面の方向や蓋や柄杓の置き方などの扱いがそれぞれに異なります。これらが、彦根城の井伊家伝来の茶道具として博物館に数百年を経て色褪せず保存されてきたことに驚きました。

茶道の流派は、表千家・裏千家・武者小路千家などがよく知られています。茶人でもあった井伊直弼は石州流の武士でした。石州流は、茨木城の城主も務めた片桐且元の弟である貞隆の息子貞昌（石州）が始祖です。石州は、四代将軍徳川家綱の茶頭を務め、江戸幕府崩壊まで石州流が武家茶の流儀として広がっていました。武士が、茶道をたしなみ、井伊直弼も埋木舎で石州流の修練を積んでいたのでしょう。

石州が父貞隆の菩提を弔うために造営した（1663年）大和郡山の慈光院の表門（山門）には茨木城楼門を改変して現在にのこされたとされています。

井伊家の蓋置に発して茨木市と石州流、井伊直弼の関係が直弼の著した書物から、ひもとくことができました。

出典 閑夜茶話（井伊直弼著） 新修 茨木市史第9巻



世界の種々なダム

杉田 宗三

茨木市に昨年 3 月に完成した安威川ダムは日本一中心市街地に近いダム。先月の例会時に完成したての“おにクル(新市民会館)”の屋上から見る事が出来た。

~~~~~

海外に目を広げると「世界の危険なダム 10 選」と言われるものがあった。

ここにその中からで、特殊な構造のもの 3 例を下にピックアップした。

### ◆世界一危険なダムと言われているのが、モスルダム（イラク）

泥で作られた脆いモスルダムは、一度決壊すれば下流の人々に大惨事を引き起こしかねない。イラク最大のダムだが、非常に不安定な地盤上に建築されており、50 万から 150 万の命が一瞬で失われるとの推算がある。



### ◆建設のために住民 110 万人もが強制移住させられた三峡ダム（中国）

世界で 7 番目に危険なダムと言われているのは大型重力式コンクリート造の三峡ダム。その規模の大きさから、地球の自転を変える恐れがあるとの予測を米航空宇宙局（NASA）が出したほどだ。2020 年には洪水警報が発令され、4 万人が避難を余儀なくされた。ダム周辺には軟弱な地盤が目立ち、建設前から地滑りの危険性が指摘されていた。2009 年の完成直後から無数の亀裂が確認されるなど、安全性への懸念が絶えない。



### ◆巨大な朝顔型の吐水口で有名なモンティセロダム（アメリカ）

世界で 8 番目に危険なダムと言われるアメリカのモンティセロダムは、巨大な朝顔型の吐水口で有名だ。世界で最も美しいダムとも称される素晴らしい外観とは裏腹に、飲み込まれればひとたまりもない危険をはらんでいる。毎年多くの観光客が、この死と隣り合わせの光景に引きつけられて訪れる。



## 次回のイベント

お花見 4月3日(水) 京都植物園 阪急茨木市駅 9時30分集合

### —— 次回『街ing いばらき』例会のご案内 ——

日 時： 令和6年3月7日(木) 14:00～16:00 2月の例会はなし。

場 所： 川本本店 茶論「縁」(サロン「えん」)

内 容： 1. 河原町・高瀬川周辺散策の振り返り  
2. 4月3日(水)のお花見  
3. 5月と6月の散策 他

## 『街ingいばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



### « 編集後記 »

- 2024年は能登半島地震で始まりました。1ページに杉山さんからの原稿を掲載しています。地震発生の際には、日ごろからの備えにより少しでも被害を少なくしたいものです。
- 次回の行事は京都植物園のお花見。4～5ページに案内を掲載しています。申込締切りは1月31日(水)、ぜひご参加を。
- 今年も安全に気をつけながら、楽しく活動していきましょう。

### « 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ing ホームページ : <http://www.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2024年1月現在での訪問者は10,120 <前月比20の増加> となっています。

